

露出プレイ中
心無い
警官に速捕
される幸子



みまらざ
For ADULT only

「ごつち目線下さい!」
「奥水ちゃんカワイイ!」

ボクは定期的に個人で撮影会を開いていた。

撮影会と言ってもプロデューサーが持つてきてくれるような物ではない。

最初は単に人に見て貰いたいからと言う理由で始めたものだったけど、一度流れてヌード...や、えつちな事...を撮られてからというものの、ボク自身この淫らな撮影会がやめられなくなっていた...

「しかし奥水ちゃんが処女じゃなかったなんてな...ちよつとショック」

「え...カワイイボクを撮影できるんですよ感謝して欲しいくらいです!」

撮影会も何度か開いて来る方の殆どが常連になつていた、しかし今日は常連さんの提案で新規の参加者を多く呼び、いつもと少し違った空気が流れていた...

「え!、奥水ちゃんつてまだ〇学生でしょそれがこんな事しちゃつてどんだけ遊んでるんだよ!」

「う...」

「こんなに沢山の大人の前で股開いちゃつてさ!」
「ピッチ〇学生だね奥水ちゃんは!」

「う...う...」

「どつせ枕営業とかしてるんでしょ!」

「そんな...酷いです!」

何これ...ボクはカワイイ自分を見て貰いたいただけなのに...なんでこんな事に...

「変態淫乱〇学生もつと脚開けよ!」

「いっばいおちんほ唾えてきたマン!」もつと見せてみるよ!」

「う...」

酷いことを言われながら言われるがままに脚を広げてしまつ...

「あれ、奥水ちゃん濡れてね?」
「ほんとだ、淫乱マン!からおつゆ垂らしてるぜ!」

う...う...自分でもよく分からないけどいつもより身体が...熱い!...

じゅ...

「奥水ちゃんはほんと下変態なんだな」
「テレビでは結構強気っぽく見えるけど
ほんととはドMなんじゃん」

「も…もつやめてください…!」

「とか言い出し

さつきよりも濡らしてるじゃねえか」

「オラーもつと脚開け!」

脚を開くとみんなが一斉に撮影する…
ボクの…アソ」を…。

「もつぐちよぐちよじゃねえか
自分でマン」開いてもつと見せるよ!」

「変態○学生の淫乱マン」見て下さいつて言いながらな!」

「へ…変態○学生の…
淫乱…マン」…

もつと…もつと見てください…!」

はあ♡♡

は♡♡

は♡♡

「おー撮ってやるよ

ド変態な奥水ちゃんのアソ」をじっくりな」

嫌な事を言われる度に股間が熱くなる…
なにこれ…いつもと違う…
なんでこんなに感じちやつてるの…。

「あっあああああっ!♡♡♡♡」

ガクガクツと腰が痙攣する…
見られて…罵られてるだけで…
イッちやつた…。

ゴクッ

ぐ

ビクッ
♡♡♡

ムロッ

ジュッ
フッ

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

ズッ
フッ

「今日は自隠しブレイね」

「そう言われ
アイマスクを手渡された…」

「い、いつも突然ですね」

「最近マンネリしてきたからねー
つてか、幸子ちゃんも好きでしょ」

「ふ…ふふん…」

「まあ…着けますけど…」

「言われるがままアイマスクを着ける…
何も見えないのつて…
ちよつと…心細い…」

「しかし…撮影会はいつも通りに進んでいった…
アイマスクの効果つて…なんだつたんだろ…」

「じゃあそろそろ挿れるよ…幸子ちゃん」

「そつ言つと…ボクの中に挿いつてくる…
え…大きい…？」

「ちよ、いつもより
大きく…ないですか…？」

ビ
クッ

「いやー自隠しブレイで興奮しちゃつてねー
おじさん、大きくなつちやつた！」

「…そ、そつ言つものなの…？」

「あつ♥あつ♥」

「やっぱり…大きいです…♥」

「ああ♥ああ♥」

「幸子ちゃん気持ちよさそつだねー」

「ああ♥♥気持ちいい♥
気持ちいい♥♥」

は、あ、あ

は、あ、あ

「じゃあ自隠し取ってみようか」

目隠しが外され…

目の前にいるのは、ボクに挿れていたはずのおじさん…

「え…？」

じゃ、じゃあ…誰が…
後ろを振り向くと…知らない…黒人…

「ええええっ！いやあつ！
な！何ですかこれ！」

「知り合いのボブ君だよ」

「だ、誰ですかその人！
ちよ…止めて下さい！」

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

「ああっ♥あああつ♥」

「ほーっ！気持ちよさそうじゃん」

「んあああつ♥あああつ♥」

「トロットロだねえ」

「黒人チンポきもちいいですって言うてみな」

「あああつ♥」

「黒人チンポお♥」

「黒人チンポ気持ちいいれすうううう♥♥♥♥♥」

「気持ちいいよおお」

「もっ…何も考えられない…」

「あああつ♥♥♥♥♥」

「あああああつ♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

ジュ
プッ

ジュ
プッ

ズ
ッ

ズ
ッ

ズ
ッ

見た事ないサイズの…おちんちんに…
激しく責められて…
実は…すごく良かった…

「うっ…うっ…」

「えー幸子ちゃん気持ちよさそうにしてたじゃん
黒人チンポいいでしょ」

「じゃあ今日はここで撮影しようか」

え……って……図書館……

「な、何を言ってるんですか、こんな所で撮影しちゃう駄目ですよ」

「それが良いんだよ」

と言われ……半ば無理矢理押し込まれた……

「この辺がいいかな」

図書館の端の方……

確かに読む人が少なそうなのに難しい本が並んでいて……人は余り通りそうにない……

「じゃあ撮影始めようか」

そう言つといきなりスカートをたくし上げられた、頭わになるボクの……下半身……

「っわわっ!!」
思わず大声を上げてしまつた。

「じいっ!!」

「声を上げちゃだめだよ、しかしちゃんと下は履かずに来たんだねーえらいえらい」

「だ……だつて……」

「カワイイなあ幸子ちゃん」

そう言つとボクのお尻を愛撫し始める……

「んっ!!」

思わず声が漏れる……

「んっ!!」

あんまり大きな声を出す……ほら、あそこにいる人……こち見てるよ」

「!!」

確かにそつちの方を見るとこつちを見ている人がいた……ドクン……心臓が跳ね上がる……

……その人は怪訝そつな顔をした後向こつちに行つてしまった……

「やっぱり駄目ですよこんな所で!!」

「だーからーそれが良いんだよ」

……

「んっ……んっっ♡」

そつ言つと愛撫をしていた手が股間の方に伸びてきた……

人に見つかるといふ焦りと声を上げてはいけないと言つてもどかさからか……いつもより身体が反応していた……

「じゃあそろそろ」
そつ言つとジツパーを下ろし
もう既に大きくなったおちんちんを
ボクのおそくに押しつけてくる…。

「えっ…」
こんな所で駄目ですって

「いーからいーから」

そつ言つとおもむろに
ボクの中に…。

「んあっ!」

そつ言つと腰使いが変わり
ピストンが激しくなる…!

パツパツ!

「だ…だめですって…」
音…しちやてる…!

パツパツ!

バレちゃう…人に見られちゃう…。

そつ思つた瞬間…ボクは絶頂に達していた。

「ああーっ♥♥♥
あああああっ♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

あゝ♥

だめ♥

「だから幸子ちゃん
大きな声出すと人が来るよお」

「だつて…」

「いつもよりも気持ちいいんだ?」

「う…」

確かに…

図書館はボクも勉強によく利用する場所で…
知り合いもいるかもしれない…
そんな背徳感からなのか…いつもより感じていた…。

「じゃあもつと気持ちよくなろうっね」

「じつそ…なにやしてるの…」
逮捕するわよ!

え…! け…警官?

「ちよつと来なさい!」

に…逃げなきや…

振り向いた瞬間
本棚の影から躍り出た人影に
手を捕まれる!

「なによ…面白い事してるじゃない!」
「え?」

それは見知つた顔だった…

その人は…図書館だといつのに何故か
片手に二升瓶を持っていた…。

「よーし…私もませなさい!」

…フギヤ…!

露出プレイ中
心無い警官に
逮捕される幸子

・後記

朝起きたら身に覚えのないメールが作成されていた。

『次のガチャは死刑囚「レクンミン」』

アイラブポーク！(挨拶)

どうも、海栗です。

総選挙上位ユニットではち化し中の
幸子がかわいい！

幸子本も3冊目になりました
少しでも楽しんで頂ければ幸いです。

・奥付

発行：うにくらげ

発行日：2013年08月11日

印刷所：グラフィック

web : <http://unikurage.sakura.ne.jp/>